

第11回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和5年10月6日(金)
開会13時30分 閉会14時35分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員(教育長職務代理者) | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 教育次長 | 田中 秀和 |
| 学校教育推進監 | 中村 正芳 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括主幹 石崎 貴史 |
| 教職員課 | 課長 鈴鹿 貴久 |
| 人権教育・生徒指導課 | 課長 横山 智康 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
(1) 元公立学校教職員の退職手当の支給制限処分について
- 6 協議事項
(1) 令和4年度児童生徒の問題行動に関する調査結果及び学級がうまく機能していない状況等について
- 7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本件議題に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。附議事項（１）は人事案件であるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項（１）は非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により本案件は非公開とすることに決した。

協議事項（１）令和4年度児童生徒の問題行動に関する調査結果及び学級がうまく機能していない状況等について

○人権教育・生徒指導課長より一括説明

(委員)

2ページのいじめの認知件数のところであるが、いわゆる SNS 上でのいじめほどの程度の割合で含まれているか。

(人権教育・生徒指導課長)

件数自体は、過去最多で増え続けてきているが、割合としてはそんなに変わっていない状況である。今回、岡山県で約 380 件程度である。

割合としては例年 5%程度というような形になっており、年々増加傾向にあるが、SNS 上のいじめについてはなかなか見えないところでもあるため、県教委としてはネットパトロールや STANDBY 等に対応している。見えないところもあるため、より注視してまいりたい。

(委員)

スマホの所有率が低年齢化してきているが、小学生も増えているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

そのとおりである。

(委員)

今後の取組みの中でいじめ見逃しゼロを掲げているが、見逃しや見えない部分は、相当数あるという認識でよいのか。また、何件ぐらいあるのか。

(人権教育・生徒指導課長)

この調査のはじまりは、いじめの発生件数が何件あるかだったが、いじめが見えにくい
ため、今は学校が把握し対応した認知件数という形になっている。

文部科学省も大人から見えないところに、たくさん*の*いじめに繋がる行為があると考
えており、認知件数が多ければ多いほど、困っている子供たちに、教員の目が行き届き、
きちんと対応できていると判断している。

そのため、数自体はSNSが広がり、見えなくなってきた部分が増えていることもあ
り、そういった意味も込めて、「いじめ見逃しゼロ」と「いじめの重大事態ゼロ」を掲げ
ている。

学校現場等はいじめゼロが先に出るが、いじめゼロになると、いじめがあることがいけ
ないと考えてしまい、例えば学級担任が校長に報告ができないなど、組織的な対応につな
がらない可能性もあるため、県教委としては、「いじめ見逃しゼロ」という形にしている。

(委員)

世の中の人*が*思ういじめゼロは、見えないいじめもゼロという捉え方をされるが、そう
ではなく、早期発見早期対応によって、いじめ見逃しゼロにしていくという捉え方をして
もらう必要があるのではないか。

(人権教育・生徒指導課長)

記者にレクチャーした際も、増えたということは、いじめが増加し状況が悪くなったと
思われており、理解してもらうのに時間がかかった。

今回も新聞報道等*に*いじめ過去最多と報道されたが、文部科学省はいじめの認知件数
の増加を肯定的にとらえているが、なかなか理解してもらえない。

(教育長)

趣旨はいじめを見逃さないことが1番大事だという考え方である。

なので、数字が増加することが必ずしも悪いこととは限らないということである。

(委員)

いじめのアンケートは、毎月行っている小学校もあると言われたが、それは学校によっ
て独自で行っているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

学校独自で1人1台端末や紙でやることもあれば、いじめに特化したアンケートや各
行事の反省のアンケートを利用したものも含めていくとかなり実施されており、特に小
学校では熱心に行っている。

1人1台端末になり集計も簡単なため、増加したこともあげられる。

(委員)

何回もアンケートを実施することはすごく良いことだと思う。

各行事のたびにアンケートをとることによって子供たちの思っていることが分かってくると思う。重苦しいアンケートではなく、気軽に回答できるような工夫することで書き込みやすくなると思うので、そういった取組みをされているところが良いと思った。

また、P 3の高等学校の中途退学者が入学時に多いと言われたが、オープンスクール等で事前に見に行っただとしても実際入学すると違ったということが多かったのか。

(人権教育・生徒指導課長)

各学校に問い合わせてみたが、オープンスクールには行ったが、入学することに重きを置いて、実際に入学してみると違ったと感じる子が一定数いた。特に定時制高校にそういった傾向が見られた。

(委員)

辞めた子はまた別の通信制に通ったりしているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

通信制へ行ったり、アルバイト等の就職をしたりしている。

(委員)

いじめの問題は何をもって解消というのも難しいと思う。

いじめの問題は被害を受けた方をどう守るか、加害者のケアをどうするのか。

いじめという行為に出てくる裏に何があるのか。実は加害者もいろんな意味でいうと被害者のなところもあるのではないのか。いじめの解消に向けてどのような対応をするのか。いじめ解消に向けて、大人はどういうような視点がいるのか。いじめの発生を防ぐための教育のあり方や日頃からどのような考え方を共有するなど何か進んできていることはあるのか。

(人権教育・生徒指導課長)

いじめの解消率については、年度間調査のため、数字は変動するが、学校が丁寧に対応しているのは事実である。

加害の子供に対しても実際になぜそういった行為に及ぶのか、その子の環境や背景といったことも踏まえた上で指導するように配慮している。また、保護者も子供もいじめという言葉に敏感であるため、状況によってはいじめという言葉を使わずに、加害者と保護者に丁寧に伝えながら人間関係を作っていく必要もある。

マスクの着用など、いろいろ制限が加えられていた数年間だったが、現在は徐々に戻りつつあり、そこについて配慮する必要はあると思っている。例えば、感情を読み取ることであるとか、他者の気持ちを汲み取るなどのソーシャルスキルトレーニングの時間を設けるなど丁寧に集団作りに努めていきたい。

(委員)

長期欠席と不登校について1, 0 0 0人当たりの推移で岡山と全国平均の比較につい

て、小学校・中学校の時は、6.9ということで、岡山が全国平均を下回っているが、高校に行くと全国平均を上回っていることについてはなにか問題意識を持っているか。

(人権教育・生徒指導課長)

岡山県は特に義務教育の方が増加率を少し抑えているが、支援対象者リストという全小学校中学校が毎学期に県教委まで報告を上げてくるものがあるが、支援対象者リストを活用し、子供の状況を把握しながら行っている。

高等学校も提供しているが、その支援ツールの活用が進んでいないところがある。

これは昨年、今年と進めているところではあるが、どうしても高等学校になると、単位認定も関係してくるので、なかなかハードルが高い。

中退については、岡山県高等学校では安易に退学させていないということも言える。

不登校であるため続かないと判断し、退学させれば、この数字は下がるが、休みながらも登校する子供が多ければ数字が増えてしまう。この数字だけ見ると岡山県は小学校・中学校より高校の対応はどうかと見えるかもしれないが、好意的に見ると、岡山県高校の教員が他県よりも熱心である可能性もあるのではないか。

簡単に退学させるよりも学校で受け入れた責任として、どうにかしてこの子たちを学校に来られるようにしたいと思うが、振り分ける際に、アセスメントが足りずに本来であれば保護者の無理解やその他かもしれないが、登校していない状況だけを見て、不登校と安易に判断している可能性もある。

その部分についてはもう少し指導していく必要があると認識している。

(委員)

中退率は全国と一緒にある。全国より低ければ、留まっていると言えるが、中退率が一緒であれば、必ずしも岡山が退学させていないとは言えないのではないか。

現場はそう思っているかもしれないが、本当はどうかのしつかり見る必要があるのではないか。

(人権教育・生徒指導課長)

中退率の方は通信制も入るが、不登校は数値で入らない。

(委員)

通信制を除くと岡山県の全国平均より低いのか。

(人権教育・生徒指導課長)

去年までは低かった。

(教育長)

岡山県は岡山県に本部を持つ通信制が多いため、通信制の生徒の割合が非常に多い。その子供たちが東京や福岡に住んでいても岡山県でカウントするようになる。通信制は一生懸命やっている子もいるが、安易に入って、安易に辞めていく割合が非常に高い状況が、確かにある。

(委員)

P4の長期欠席の理由別人数があるが、理由のところでは病気とお金とあり、不登校で、一括りになっているが、長期欠席や不登校になるのかと言われたとき、今議論しているようないじめや暴力行為、また学力が自分に合っていない問題が原因になっている部分があると思う。

子供同士いじめばかりではなくて、教師との関係で、不登校になることもあると思うが、細かな理由は、分かるようになっているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

支援対象者リストというものがあり、それに備考欄に書くようにはなっており、全部を把握しているわけではないが、県教委でも把握はできるようになっている。

(委員)

なぜそういう質問をしたかと言うと、過去見てきた方の中には、非常に学力が高く優秀な人もいたが、そういう人といじめによる不登校の人では対応が違って来る。

(人権教育・生徒指導課長)

国の調査も不登校の項目はいくらかあるが、いじめやいじめを除く友人関係であるとか、学力・本人要因・家庭の要因など分かれている。

ただ、学校や市町村から報告される人数なので、1人1人の状況を見るとなると支援対象者リストで把握をするというような形になる。

(教育長)

委員が言われたように、ある程度カテゴライズして、それに対しての方向性を持っていく。さらに個別の事情については、カウンセラーやSSWに入ってもらって対応策を吟味していくことが本当に大事だと思うが、20年前の話で、本人も理由がよくわからないというケースもある。また、この調査は学校が回答しているため、子供の思いと食い違うケースもあるため、よく考えながら対応しなければいけない。

(委員)

個別の表があるというのでそれに対応し、対応する中からどういう課題があるのかを、洗い出しながらフィードバックして、予防にどう繋げていくか。

もしかしたら大学教授の研究課題であったりするのかもしれないが、発達段階での物の見方を共有していくと違って来るのではないかと。様々な対応をする中で現場の教員にはどのように事例を共有しているのか。

(人権教育・生徒指導課長)

当課に不登校対策専門の指導主事を配置し、毎日のように学校訪問を行っており、スタッフも含めてチームで対応しながら、好事例を拾い上げて、県下に広めようとしている。

(教育長)

私は不登校対策に3つの柱があると思っている。3つ目は行き先。2つ目はアセスメントを専門家も入れながらチームで行っていくこと。実は1つ目の学校の高圧的な雰囲気

が課題ではないか。この不登校対策の3本柱の中の1つである子供に決めさせない教員が一方的に押し付けていく雰囲気にならないと不登校はなくなると思う。

(教育次長)

1番最初のところで学校が楽しくないと来ない。

勉強のできる子が不登校になるということもあるが、そこにも対応する必要もあり、今求められている、個別最適な学びがそこに当てはまる。理想は、自分で勉強し始め、分からないところを教員に聞く。実際に行っている学校もいくらかあるが、正直、難しいところもある。個別最適な学びを進めていくことで学校が楽しい場所となり、自分自身の成長を実感できる場所にしていきたい。

以下、非公開のため省略

閉会